

工具とジャッキ……………107
 バックしたときは……………109
 万一のときの処置……………115
 こんな故障の応急処置は……………117

工具とジャッキ

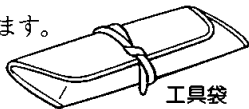
それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。



- 注意！
1. 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
 2. 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
 3. 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

■工具

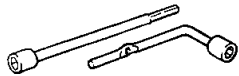
工具はスペアタイヤの横(LPG車はトランク右側)に格納されています。



ガソリン車

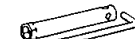


タクシー

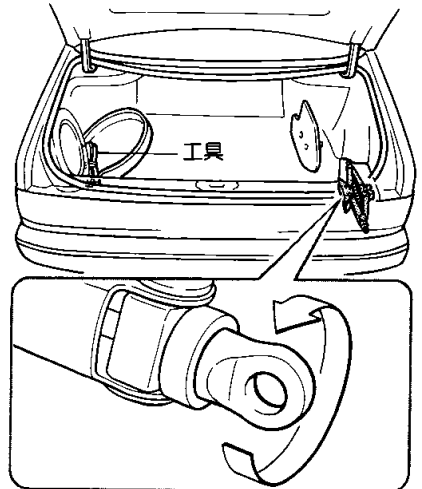
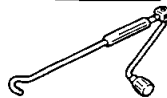


(兼ホイールナットレンチ)

LPG車



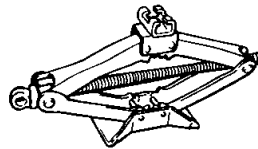
LPG車



万一のときの処置

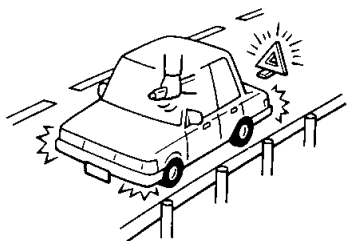
■ジャッキ

トランク右のカバーの下に格納されています。上図のように回すと取り出せます。

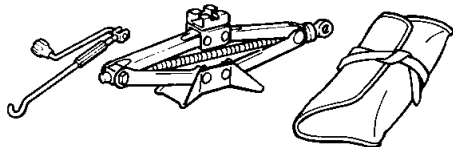


■ジャッキアップをする前に

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。
4. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はPの位置にします。
5. 工具やジャッキを取り出します。



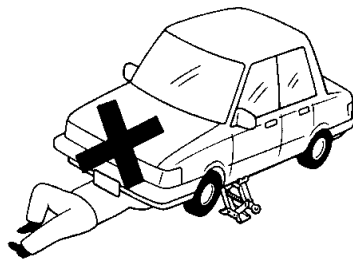
6. 輪止めを取り出します。

■ジャッキのかけ方



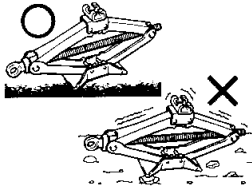
注意！

1. ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。□111ページ参照
2. ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてケガをするおそれがあり危険です。
3. ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。



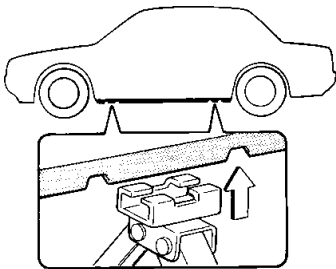
4. 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
5. ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。
6. ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。

1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。

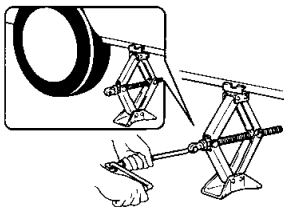


2. ジャッキを手で回して、ジャッキセット位置まで上げます。

▶ ジャッキをセットする位置



3. ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使用して、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



パンクしたときは

① スペアタイヤ



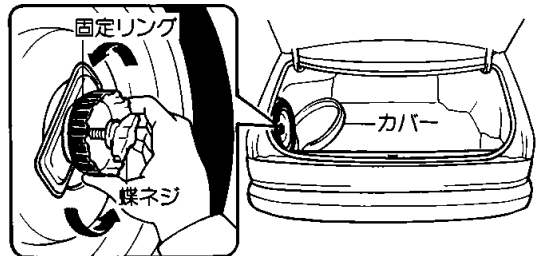
ちょっと一言

1. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
2. パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早めにパンク修理してください。

■ 格納場所

ガソリン車

トランク左側に格納されています。



▶ 取り出し方

1. カバーをはずします。
2. 固定リングを左に回して取り出します。

▶ 取り付け方

タイヤを格納し、固定リングを右に回して固定します。

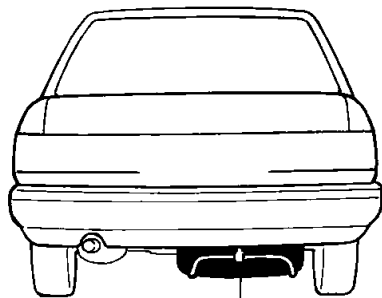


ちょっと一言

標準タイヤを取りつける場合は、あらかじめ蝶ネジを右に回してボルトをのばしておいてください。

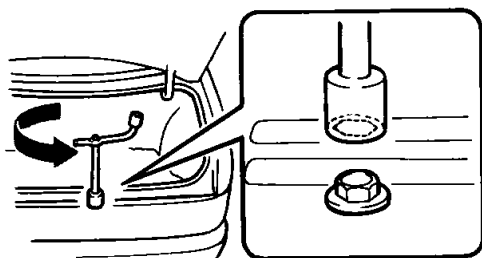
LPG車

トランク下部に格納してあります。

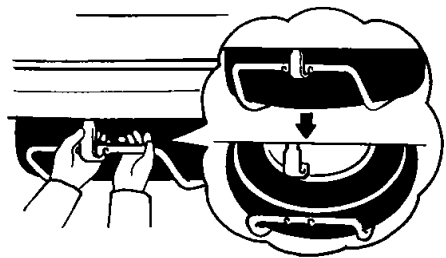


スペアタイヤ

1. スペアタイヤキャリアレンチでトランク内のボルトを十分ゆるめます。



2. スペアタイヤ格納具を少し持ち上げて、フックからはずします。



3. 格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろし、スペアタイヤを取り出します。
4. 格納するときには逆の手順で行います。
なお、トランク内のボルトは十分締めつけてください。

万一のときの処置

■スペアタイヤ

- 応急用タイヤ

グラnde、GRサルーン、GL

- 標準タイヤ

タクシーに標準装備

グラnde、GRサルーン、GLに注文装備

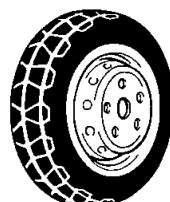
▶ 応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。

標準タイヤ



応急用タイヤ



※ 応急用タイヤは図のように標準タイヤと異なり専用タイヤです。



ちよつと一言

この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできていますが走行上支障はありません。ご使用になる場合は、右の注意事項を必ずお守りください。



注意！

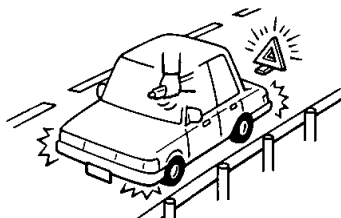
1. 応急用タイヤを装着しているときは100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤはただちに修理して、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
2. 車に搭載されている応急用タイヤは、**お客様のお車専用**です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響がでて思わぬ事故につながるおそれがあります。
3. 応急用タイヤを装着して突起物などをのりこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。
4. 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪に使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
5. 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。空気圧：4.2kg/cm²（走行前のタイヤが冷えているとき）
6. 空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

パンクしたときは

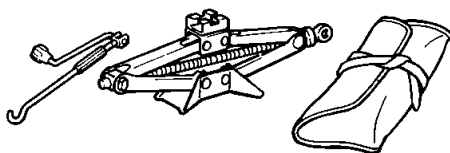
———②タイヤ交換

■準備

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

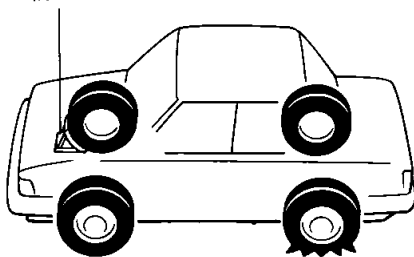


3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。
4. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はPの位置にします。
5. 工具やジャッキを取り出します。



6. パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止め（搭載工具に含まれています）をします。

輪止め

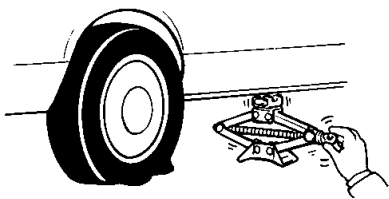


前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側、後輪がパンクしたときは前輪の前側に輪止めをしてください。

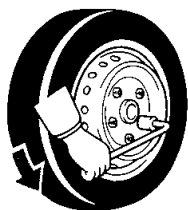
7. スペアタイヤを取り出します。⇨109ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。
8. ホイールキャップをはずします。⇨113ページの「ホイールキャップの取りはずし方」を参照してください。

■ジャッキアップ

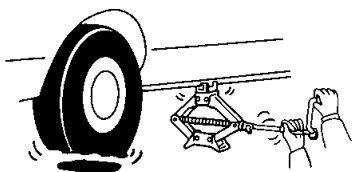
1. ジャッキをセットします。☞108ページの「ジャッキのかけ方」を参照してください。



2. ホイールナットレンチでナットを左に回し、手で回すくらいまでゆるめます。



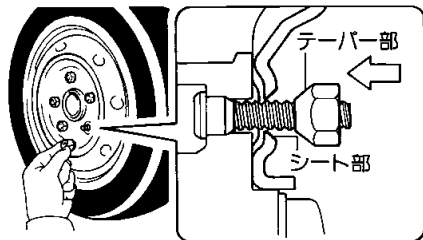
3. 車を、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキアップします。



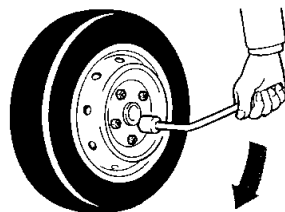
2. ナットのテーパ部分がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮締めします。



注意！
タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリスをぬらないでください。
必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。



3. ジャッキを下げて図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締めつけます。



注意！
ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

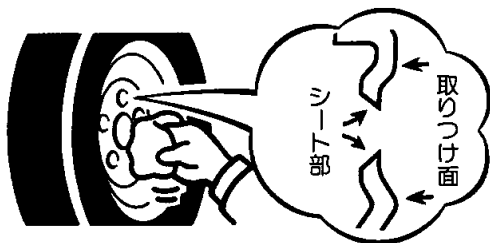
4. ホイールキャップ付き車は、タイヤのバルブ(空気口)にホイールキャップの穴をあわせて取り付けます。

■タイヤ交換

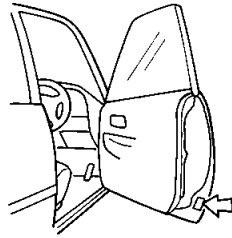
1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。



注意！
タイヤを取りつけるときに、ホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどでよごれていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。よごれをふきとってから取りつけてください。



5. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



注意!

空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。



ちょっと一言

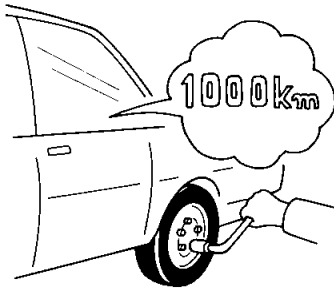
「タイヤ空気圧」表の中に示されているタイヤサイズは車種またはグレードにより装着できないものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

6. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。
タイヤを格納するときは確実に固定してください。



ちょっと一言

1. タイヤを脱着したときは、タイヤを取りつけて、1,000km走行後、再度ホイールナットを締めつけ、ゆるみがないことを点検してください。



2. タイヤを新品と交換する場合は、トヨタ販売店で相談してください。
異なったサイズ、メーカー、銘柄およびトレッドパターン（溝模様）のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、絶対にしないでください。

■ホイールの取り扱い方

▶ホイールキャップの取りはずし方

スチールホイールの装着車



注意!

直接手をかけて取らないでください。ケガをするおそれがあり危険です。



ちょっと一言

ホイールナットレンチ、⊖ドライバー以外は使わないでください。

ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2~3ヵ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。) ただしLPG車は⊖ドライバーを使用します。



アルミホイール装着車



注意!

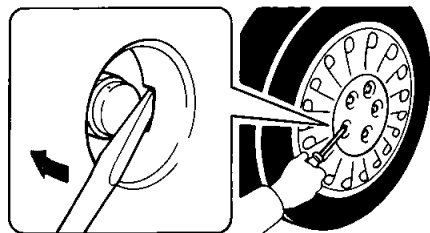
直接手をかけて取らないでください。ケガをするおそれがあり危険です。



ちょっと一言

⊖ドライバー以外は使わないでください。

⊖ドライバーの先をセンターキャップの切り欠きに差し込み、ホイールナットの頭部を支点にして、タイヤ側にこじるとはずれます。

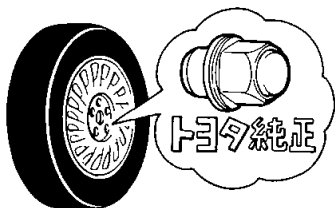


■アルミホイールの取り扱い方

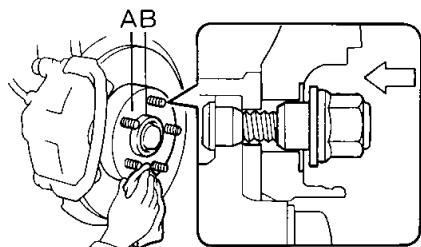
1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くときは意匠面を上にして置いてください。



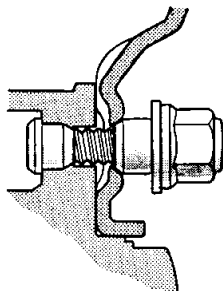
2. バランスウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミホイール専用品をお使いください。



3. 傷、変形のあるアルミホイールは再使用しないでください。
4. アルミホイールを再び車両に取りつけるとき、図のA、BのよごれをきれいにふいてからBの部分を実際にはめ、ホイールボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイールナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。さらに、レンチを使用して手で十分締めつけます。



5. ホイールナットを締めすぎないように注意してください。
6. タイヤチェーンを装着すると、ホイールに傷をつけるおそれがあります。
7. 応急用タイヤまたはスチールホイールを取りつける場合、ホイールナットは下図のように取りつけてください。



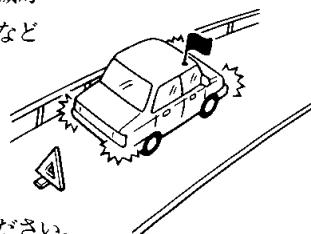
注意!

1. ナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。
2. ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

万一のときの処置

故障したら……

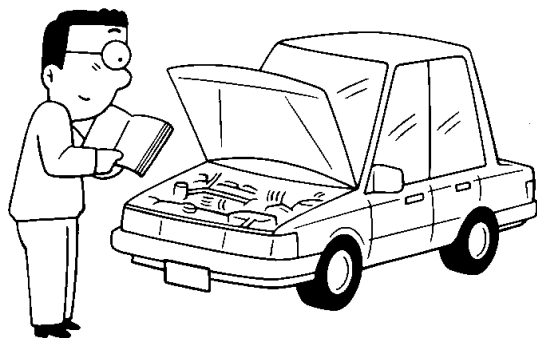
1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いてください。法律で義務づけられています。



非常電話を利用する場合などは、安全な場所を歩くよう心がけてください。

ちよつと言

▶ 困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
「整備手帳」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。



走行中、エンジンが停止したときは…

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

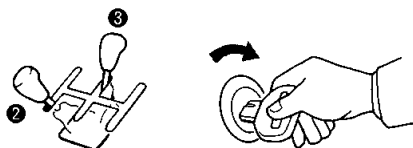
1. ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）が作用しなくなりますので、ブレーキペダルを強く踏んでください。
2. パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

エンストして始動できなくなったときは…

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押しもらってください。



2. マニュアルトランスミッション車はチェンジレバーの位置をセカンドまたはサードにいれ、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。また、平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。

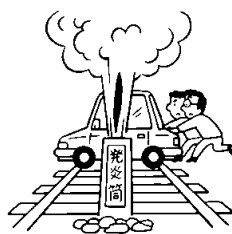


オートマチックトランスミッション車はエンジンスイッチで車を動かすことができません。

ちよつと言

踏切内で動けなくなったときは……

脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

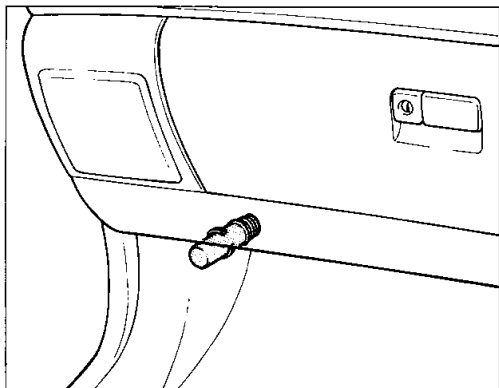


踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

万一のときの処置

発炎筒

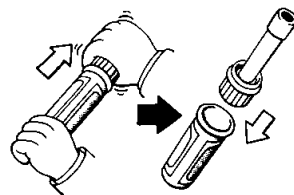
高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使用します。



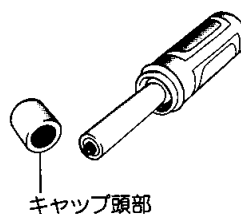
1. グローブボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
3. 本体に表示してある有効期間のきる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤー(発炎筒)をお求めください。

▶使い方

1. 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2. キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



1. お子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



2. ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。引火するおそれがあります。
3. 使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。
4. トンネル内などでは使用しないでください。煙で視界を悪くするので危険です。トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。



発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

ブースターケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

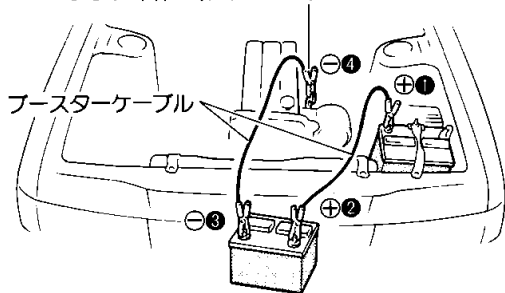


救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. ブースターケーブルを図の番号の順序に接続します。

⊕と⊖を間違えないようご注意ください。

自車(バッテリーあがり車)
エンジン本体へ(フックなど)



他車(救援車)



注意!

1. ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
2. 火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあり危険です。



絶対に押しがけによる始動はやめてください。

ちょっと一言



注意!

④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。



ちょっと一言

①の接続は必ず自車(バッテリーあがり車)の⊕端子にしてください。

2. 接続後、救援車のエンジン回転を少し高めにしておきます。

3. 始動のしかたは□43ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。



注意!

バッテリーに近づかないでください。バッテリー液が吹き出すおそれがあり危険です。

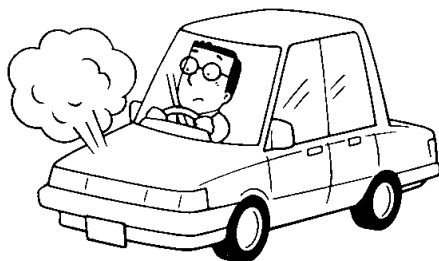
オーバーヒートの処置は……



注意!

1. ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどをしたり、思わぬケガをするおそれがあり危険です。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
2. ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
3. 冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

1. 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。



2. ボンネットから蒸気がでていたらエンジンを止めます。蒸気がでていなければ、ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。

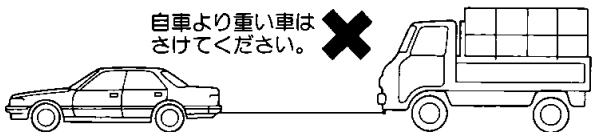
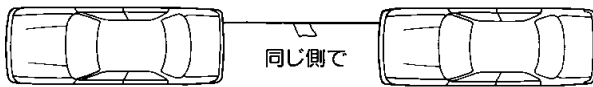
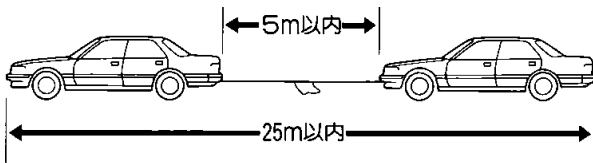
〈ボンネットから蒸気がでている場合のみ〉

蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けてエンジンをかけます。

3. ファンベルト切れの有無を確認してください。万一、ファンベルトが切れているときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部（放熱部）の著しいよごれ、ごみの付着の有無、ファンベルトのゆるみなどを点検します。
詳しくは整備手帳をご覧ください。
5. 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
6. 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

けん引してもらうときは…

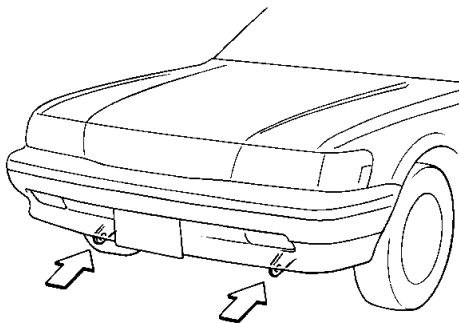
けん引は、下図の方法を守ってください。



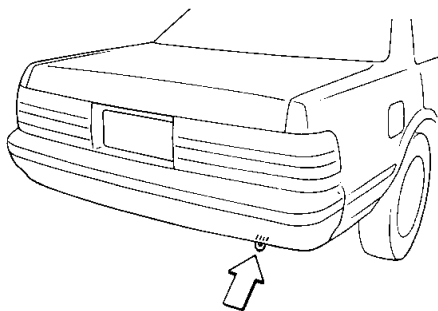
※けん引される車はけん引車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。
また、けん引ロープには0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。

■ロープをかける位置

▶フロント側



▶リヤ側



注意！

1. エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。
2. オートマチックトランスミッション車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
3. 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。
4. けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。



ちょっと一言

1. けん引される車は、次の事項を厳守してください。
 - チェンジレバーをNの位置にする。
 - エンジンスイッチをACCまたはONにする。
2. フロントけん引フックを使用されるときはロープでボデーに傷をつけないようにしてください。
3. 次の場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
 - エンジンが回っているのに車が動かない。または異常な音がする。

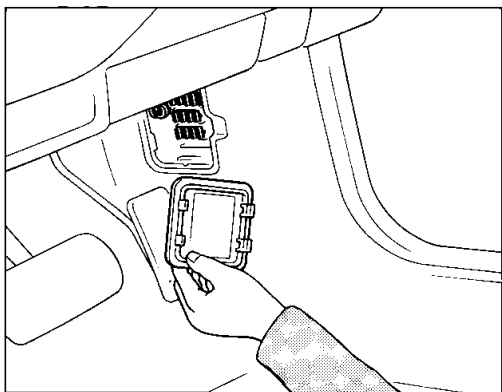
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れているか、サーキットブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておく便利です。

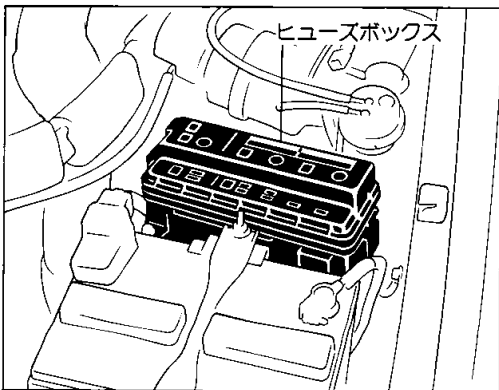
■ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは、運転席足元とエンジンルーム内にあります。

▶運転席足元ヒューズボックス



▶エンジンルーム内ヒューズボックス



ヒューズの受け持っている装置は○122ページを参照してください。

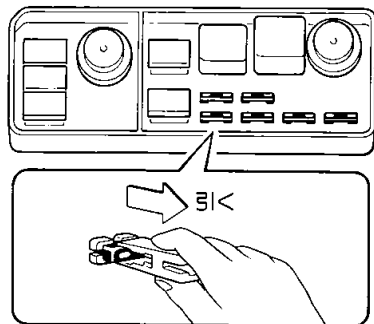


ヒーター、エアコンが作動しないときはトヨタ販売店へご連絡ください。

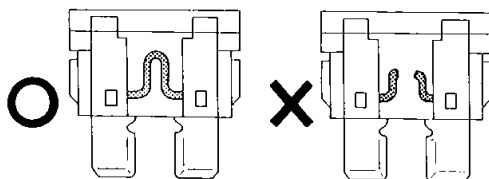
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスカバーの裏側についています。)



3. ヒューズが下図の右側のようにであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。

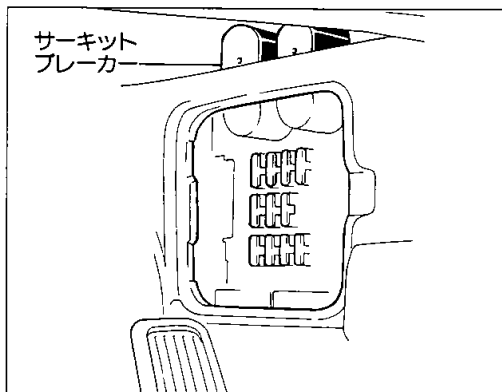


注意！

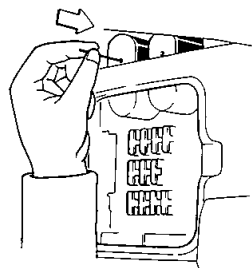
1. ヒューズのかわりに針金、銀紙などを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

■サーキットブレーカー

サーキットブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



▶リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）、パワーウィンドウが作動しないときは、サーキットブレーカーの回路がしゃ断されている場合があります。



1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. サーキットブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がする位置まで、軽く差し込みます。
3. これでサーキットブレーカーの回路が復帰します。

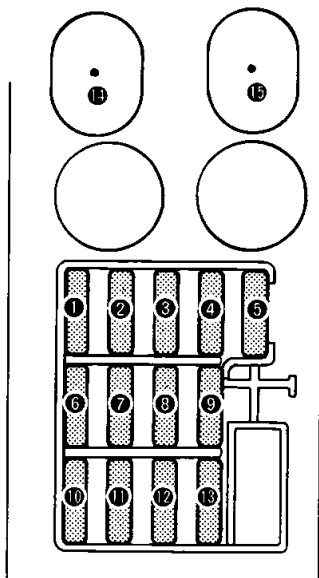


ちょっと一言

1. マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。
2. 以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキットブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ヒューズとサーキットブレーカーの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズボックス



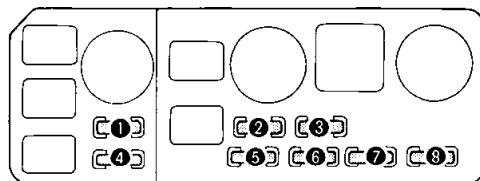
<ヒューズ>

①	ラジオ	7.5A	ラジオ、電動リモコンミラー
②	イグニッション	7.5A	EFI、充電警告灯
③	エレクトロニクスB	15A	A B S
④	ストップランプ	15A	制動灯
⑤	テールランプ	15A	車幅灯、尾灯、番号灯、グローブボックスランプ、シガレットライター照明、ラジオ照明、計器照明、ヒーターコントロール照明、スイッチ照明、チェンジレバー位置表示照明
⑥	ライター	15A	シガレットライター、時計
⑦	スタータ	7.5A	EFI
⑧	エレクトロニクスIG	15A	A B S
⑨	フォグランプ	15A	フォグランプ
⑩	エンジン	15A	オルタネーター
⑪	ワイパ	20A	ワイパー
⑫	ターン	10A	方向指示灯表示灯
⑬	メータ	7.5A	メーター、コンライト、パワーウィンドウ、ヒーター、後退灯、リヤウィンドウデフォグ

<サーキットブレーカー>

⑭	パワーウィンドウ
⑮	リヤウィンドウデフォグ(曇り取り)

■エンジンルーム内ヒューズボックス



<ヒューズ>

①	オルタネータS	7.5A	オルタネーターセンシング
②	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ(右側)
③	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ(左側)
④	V S V	10A	—
⑤	ハザードホーン	15A	警音器、非常点滅灯
⑥	A M 2	15A	—
⑦	ドーム	20A	オーディオ、室内灯、時計、半ドア警告灯、トランク灯、パーソナルランプ、デジタル式メーター、電動ムーンルーフ、ワイヤレスドアロックリモコン、エンジンキー照明
⑧	EF I	20A	エンジンコントロールコンピューター
	L P G	7.5A	エンジンコントロールコンピューター

万一のときの処置



予備ヒューズはヒューズボックスのカバーに取りつけられています。

- ヒューズ、サーキットブレーカーは車の仕様によりない場合があります。
- 各ヒューズ、サーキットブレーカーの受け持つ装置は主なものについて記載しています。

ランプ類が点灯しないときは……



ちょっと一言

1. ランプ類が点灯しないときは、ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。
電球の交換は、次の各規格にあわせて、同容量のものにしてください。
2. ハロゲンランプ（ヨウ素入り電球）は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。
電球交換時に、手などがガラスに触れないように注意してください。
3. ランプ類はすべて12V用をご使用ください。

■フロント側電球



注意！

ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつかけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

▶ヘッドランプ

ハロゲン ……………60/55W

▶フォグランプ

ハロゲン……………55W

▶コーナリングランプ……………35W

タクシーを除く

▶車幅灯……………5W

▶フロント方向指示燈(兼非常点滅灯) ……21W

▶サイド方向指示燈(兼非常点滅灯)……………5W

■リヤ側電球

▶方向指示燈(兼非常点滅灯) ……………21W

▶制動燈/尾灯 ……………21/5W

▶後退燈……………21W

▶番号燈……………5W

▶パルプ式ハイマウントストップランプ……18W

タクシーに注文装備

■室内電球

▶室内灯……………10W

▶パーソナルランプ……………10W

▶トランク灯 ……………3.8W

ガソリン車

▶グローブボックスランプ ……………1.4W



注意！

- 同じW数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面のくもりにつながるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



ちょっと一言

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的にくもることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内部に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。